

令和4年度 正智深谷高等学校自己評価シート

目指す学校像	※建学の精神「優しく勇気があり、強い人間として生き、すべての人間の救われる道を説いた 法然上人の教えの上に立つ」との本校建学の精神ならびに校訓「選択・専修」を踏まえ、 1 自己肯定感を育むとともに、自分で考え決断し行動できる人間・他者を認めることができる人間を育てる。 2 問題解決に協働して取り組み、他者に貢献できる人を育てる。 3 夢（ビジョン）を持ち、そのための地道な努力を継続できる人を育てる。
---------------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

第三者評価委員会	
(学校評議員 2名)	開催予定日
書面による意見聴取済み	

重点目標	1 進路指導を充実させ、進学実績を向上させる 2 入学者の定員確保のため募集・広報体制の充実 3 浄土宗門関係学校としての教育推進 4 教育活動におけるICTの活用と実践
-------------	--

学校関係者評価委員会		
学校評議員	3名	開催日
学校関係者評価委員	9名	6月26日
自己評価委員(教職員)	13名	

領域	学校自己評価						第三者及び学校関係者評価	
	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	委員からの意見・要望・評価等
1	・埼玉県北部の私立高校として本校は進学校をめざしてきたが、その評価が確立されていないのが現状である。特別進学系では一般選抜対策を充実させ、国公立大学や難関私立大学への合格者数増加をめざし、進学校としての評価を確立させる。総合進学系では進路ガイダンス・推薦入試対策指導を積極的にを行い、多様な進路ニーズに対応しながら、大学進学率の向上をめざす。	・進路状況が進学校をめざす上でふさわしい状況か。	・進路ガイダンスを行い、進路研究に取り組む環境づくりを行う。 ・大学の教員を招き模擬講義を実施し、進学意欲や学びの意欲を向上させる。 ・受験学習の方法を具体的に知ることができる説明会を実施、進学資料集を発刊する。	・大学進学率の状況。国公立大学の合格者数。難関私立大学の合格者数。 ・一般選抜受験者数、大学入学共通テスト受験者数の状況。 ・進路行事の実施状況の検証。	・大学進学率78.4%、国公立大学合格者15名、難関私立大学合格者55名。大学進学率、国公立大学合格者数は前年に比べ、わずかに減少した。難関私立大学合格者は前年に比べ、やや増加した。 ・一般選抜受験者数（45名）、大学入学共通テスト受験者数（36名）は前年に比べ、わずかに増加した。 ・進路行事については年間指導計画をもとに予定通り実施することができた。	B	・さらなる進学実績向上のために、学習動画の視聴環境（受験サプリを導入）を整える。 ・国公立受験型と私立受験型の履修科目を明確に分けて、受験に必要な科目を効率よく選択できるようにカリキュラムを再編する。	・進路ガイダンス、大学の教員の講義など積極的に進んでいると思う。
		・進路指導を中心として多様なニーズに応えた取り組みがなされているか。	・指定校数の増加のために進路指導教員を中心に積極的に大学と交渉する。 ・医療系進学者のための講習・講演会を行う。	・大学指定校数の状況と新規指定校大学数。 ・医療系講習の実施や分野別進路指導の実施状況。	・指定校数は143大学764枠となり、前年度より増加した。新規の指定校を数校増枠することができ、生徒の進路選択の幅が広がった。 ・医療系進学者が56名となり、医療系分野の進学者が増加した。理工系・文系分野の学部別志望理由書・小論文個別指導も効果的に実施ができた。		・志望理由書指導や小論文対策の指導の状況を検証し、指定校推薦で受験する生徒が指定校大学からの評価をさらに高められるように指導内容を改善する。	・指定校枠が多いため多様なニーズに対応しているところがすばらしい。医療系進学のための指導に力を注いでいることは現状のニーズに応えた取り組みがなされていると思う。
		・進学校をめざす上での教科指導が適切になされているか。	・各教科における組織的な指導計画の構築、シラバスの作成。 ・進学講習の実施。	・各定期試験実施後の点数分布の状況と教科会議での現状分析。 ・カリキュラム・シラバスの再点検。 ・進学講習の参加者数。	・教務を中心に定期試験の平均点・点数分布の検証を行い、各教科での議論につなげることができた。 ・シラバスを作成し、教科ごとに学習進度の調整や確認を行うことができた。 ・夏期進学講習では100名以上の生徒が参加、発展的な問題への取り組みを行い、学習意欲を喚起することができた。		・生徒の学力にあった学習指導計画を構築し、定期試験の結果検証、模擬試験の結果分析を行い、さらなる生徒の学力伸長を模索する。	・シラバスを作成し、教科指導を計画的に行っている。
2	・少子化・人口減少の中においても安定した生徒募集による定員確保をめざすために募集・広報体制を充実させる。	・本校の特色ある取り組みや強みをアピールし単願受験者の数を増やすことがなされているか。	・インターネットやSNSを活用した宣伝を広く行う。 ・各種イベント（募集活動）を充実させる。 ・丁寧な個別相談を心がける。	・ホームページの閲覧件数。 ・各種募集イベントや個別相談への申込件数。 ・イベントごとに行われるアンケートの評価。 ・入学試験の受験者数。 ・入学者数（手続者数）。	・ホームページの閲覧数は9月までは良くなかったが10月以降は昨年度並みに数値が回復した。 ・各種イベントへの申込数は昨年度とほぼ同数であったが、クラブ見学会への参加者が若干減少した。 ・アンケートの評価は高評価で、参加者が概ね満足しているようであった。 ・入学者数は353名で、ほぼ定員の360名を確保できた。 ・単願の受験者数が思ったほど伸びず苦戦をした。	B	・まずはホームページへの誘導やイベントに申し込みをする仕掛けを工夫する。学校案内やランディングページの充実を図り、閲覧数や申込者数を一昨年度並みに戻す。また、個別相談において本校の良さを十分にアピールし、興味を持ってくれた受験生や保護者を受験まで持っていく。	・学業だけでなくスポーツでの成績もすばらしいので、そこをSNSやホームページを活用し、伸ばしていくとよいと思う。
		・浄土宗の宗立宗門関係学校として、建学の理念である法然上人の教えを学び、校訓である「選択(せんちゃく)」「専修(せんじゆ)」の実践に結びつける。 ・日本の伝統文化や寛容の精神、忠恕の心などを大切にできる生徒の育成に努める。	・茶華道の授業を通して仏教精神を学び、日本の伝統文化への理解を深めることができたか。 ・宗教の役割、意義に関する学びを宗教行事を通じて実践することができたか。	・建学の精神や校訓「選択・専修」に基づく人間形成を日々の教育活動を通じて身につけさせる。 ・仏教精神や日本の文化について、宗教教育を通じて学び、基本的な知識を身につけさせる。	・宗教行事で実施した写経や茶華道の授業を通じて仏教精神の学びを深めることができた。 ・宗教教育が生徒指導のみならず、広く生徒の人間形成に意義ある役割を果たした。		・「建学の精神」具現化にむけ、宗教科のみならず学校全体として取り組む。 ・校内の掲示や学校配布物などを通じて法然上人の教えを知ることができる文章を掲載する。	・茶道を通して日本の文化を学んでいることがすばらしい。来校時に生徒がいつも挨拶をしてくれることがとても気持ちがいい。 ・仏教精神を学ぶことにより、大切なことを多く学んでいると思う。
4	・本校では学習活動においてICTを用いて、情報を整理・比較し、得られた情報をわかりやすく発信・伝達したりする取り組みをすでに行っているが、教科指導においても日常的にICTを活用した授業を行い、生徒の学習効率を高めることが課題である。	・情報端末やICT機材を用いて、画像、音声、動画などを提示し、視覚的に分かりやすい授業を行い、学習課題への理解を深めることができたか。 ・情報端末やICT機材を活用して課題の配信、提出を日常的に行うことができたか。	・ICTを活用した教科課題を作成し、授業内での配信、課外学習としての配信を行う。 ・通常の板書だけでなくプロジェクターを用いて視覚的な理解を促す授業を展開する。 ・学習効果の高い解説動画を活用する。	・クラッシーやロイロノートの活用状況を検証する。 ・教科会議などでICTを活用した教科指導の取り組みを検証する。	・校舎内のほとんどの場でネットワーク環境が整備され、タブレット端末での課題配信・提出が当たり前の環境となった。ロイロノートには多くの共有フォルダが存在し、教科課題の提出が頻繁に行われている。進路指導ではクラッシーを活用したポートフォリオの作成、進路関係連絡が行われている。 ・複数の教科でプロジェクターを用いて、視覚的に授業内容の解説が行われた。課題の発表をキーノートを用いて行う授業もあった。	A	・本校ではタブレット端末の活用が当たり前の環境になっているが、すべての教科でICTの積極活用を行い、近隣の高校の中でもICT活用の先進校としての評価を確立したい。	・コロナ前からいち早くICTを活用した授業に取り組み、近隣での先進校として評価できると思う。 ・ipadの適切な使用方法を再度生徒に徹底してもらいたい。